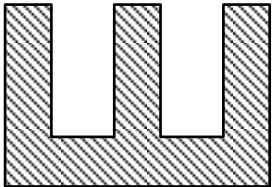
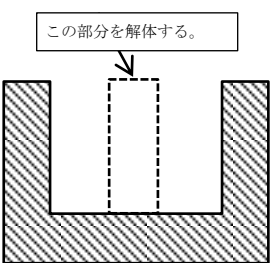
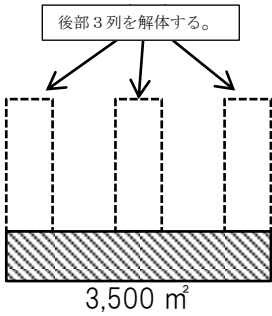
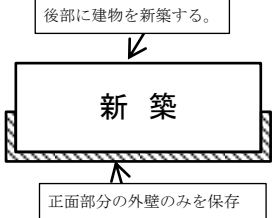
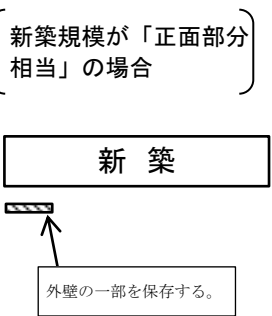


保存範囲に関する意見の整理について

- ・ 前回までの懇談会における委員からの意見を整理すると、「全部保存」、「正面部分の保存」、「外壁の一部の象徴保存」の3つに集約された。その上で、4つの視点から意見を整理した。
なお、「検討の視点」の設定にあたっては、公共建築物の価値を総合的に評価するために作成された「公共建築物の保存・活用のガイドライン」（発行：一般財団法人建築保全センター、監修：国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課、文化庁文化財部建造物課）を参考にした。

保存範囲に係る意見の要旨		意見の あった委員	検討の視点及び評価(案)			
	保存範囲の イメージ		① 建物の歴史性の保存	② 建物の意匠の保存	③ 地域におけるシンボル性の保存	④ 改修等の費用
1 「全部保存」とする。	 8,500 m²	頼委員	◎ 被爆の実相を後世に伝えることができ、学都広島象徴として保存できる。	◎ 特徴的な意匠である玄関回りを保存できる。	◎ 森戸道路から見える正面の象徴的な景観を保存できる。	△ 「全部保存」(8,500 m²)の場合 概算改修費 40.6 億円 【内訳】 耐震・中性化対策工事 16.0 億円 内外装・設備工事 24.6 億円
この部分解体する。	 コの字型とする場合もある。					
2 「正面部分の保存」とする。 後部3列は解体する。	 3,500 m²	小谷委員 桐木委員 久保田委員 弘法委員 谷村委員 若林委員	○ 旧理学部1号館の一部を解体することになるが、被爆の実相を後世に伝えることができ、学都広島象徴として保存できる。	◎ 特徴的な意匠である玄関回りを保存できる。	◎ 森戸道路から見える正面の象徴的な景観を保存できる。	○ 「正面部分の保存」(3,500 m²)の場合 概算改修費 18.5 億円 【内訳】 耐震・中性化対策工事 6.4 億円 内外装・設備工事 10.3 億円 解体工事 1.8 億円
正面部分の外壁のみを保存し、後部に建物を新築する場合もある。	 新 築 正面部分の外壁のみを保存					
3 外壁の一部を「象徴保存」する。 現在の建物の意匠を継承する形で、建物を新築する。	 新 築 外壁の一部を保存する。	河内委員 原田委員 村上委員	△ 旧理学部1号館をほとんど解体するため、歴史性の保存の度合いは低い。	△ 旧理学部1号館をほとんど解体するため、特徴的な意匠の保存は僅かである。	△ 新築する建物の内容によっては、シンボル性を創出することができる。	◎ 新築規模が「正面部分相当」(3,500 m²)の場合 概算工事費 15.3 億円 【内訳】 新築工事 12.3 億円 近年の地域福祉センター等合築施設の事例は30～40万円/m²であり、中間値35万円/m²で算出 解体工事 3.0 億円 ※外壁の一部の保存に係る費用は、保存する部分が不明のため算出していない。
新築規模が「正面部分相当」の場合	 新 築 外壁の一部を保存する。					

※「土壌汚染対策」及び「建物部分以外の敷地整備」に係る経費は、建物部分以外の敷地整備などの内容により異なることから、算出していない。